

東京の大学を知ろう!(VI)

～シリーズ:大学について知ろう(その15)～

ところで、理学部と工学部の違いがわかっていますか? 2・3年生は大丈夫ですよ。自然科学の原理を研究するのが「理学部」で、物理学や化学・生物学・数学・地球科学などの各分野があります。これに対し、「ものづくり」を主体にしているのが「工学部」で、機械・電気電子・建築・土木・材料・資源・情報・航空・原子力・応用物理・応用化学などの様々な学問分野があります。簡単に言えば、理学部が「基礎」(科学者 scientist を養成)で、工学部が「応用」(技術者 engineer を養成)と考えればよいでしょう。その2つを合体したのが「理工学部」ということになりませんが、「原理の研究」と「ものづくり」を1つの学部の中で融合させることが可能になったということになります…。

各県名のついたような国立大学にはほとんど「工学部」があります(もちろん北見工業大学、東京農工大学、長岡技術科学大学など工業系の大学にも工学部は存在します)。しかし国立大学「理学部」となると数は少なくなります。北大、東北大、東大、京大などの旧帝大の他は、近県では埼玉大、千葉大、茨城大、新潟大、お茶の水女子大、信州大、山形大、富山大といったところでしょうか。そして国立大学「理工学部」はごく少数で、弘前大(「ひろさきだい」って読めるよね、青森県だよ)、横浜国大、佐賀大の3つに、福島大(理工学群)、筑波大(理工学群)、金沢大(理工学域)、島根大(総合理工学部)、電気通信大(情報理工学域)などを加えたぐらい。近年、岩手大・秋田大・徳島大・大分大や地元の群馬大などに理工学部ができましたが、これはもともと工学部だったものを改組・改変して名称変更したものがほとんど。群馬大学の教授は「群大の理工学部は理学教育をしっかりとやる工学部と考えてください」と言っていました。

ところが、難関私立総合大学の理系学部は軒並み「理工学部」なのです。慶応、早稲田、同志社、上智、明治、中央、立命館、青山学院、法政、成蹊などは全て「理工学部」。理学部はあるけど工学部がないのが立教と学習院。そして、難関私立大の理工学部は文系各学部と別校舎になっている事が多いのです。例えば、慶応は矢上キャンパス、早稲田は西早稲田キャンパス、同志社は京田辺キャンパス、明治は生田キャンパス(川崎市)、立命館はびわこ・くさつキャンパス、青学は相模原キャンパス、法政は小金井キャンパス、等々。これらの場合、文系学部が都市部にあるのに対し、理工学部は郊外にあるのが普通なのですが、有名私大でただ一つそれとは真逆なのが中央大です…。

以下の文章は8年前(2012年)に私が中央大学理工学部の説明会に行ったときのことを書いたものです。都心にある有名私立大学の理工学部の雰囲気或少しだけ味わってくださいな。

CHUO UNIVERSITY Faculty of Science and Engineering

中央大学理工学部 に行ってきました…

東京のど真ん中にある中央大学理工学部

さて、中央大学は他の有名私大とは異なり、文系学部が多摩キャンパス(田舎)、今回行った理工学部は後楽園キャンパス(都会)となっているのです。池袋から東京メトロ丸ノ内線に乗り換え「後楽園駅」で降り、

徒歩5分なだらかな坂を上ると到着です。東京ドームのすぐ近くにあり、スカイツリーもよく見えます。東京山手線内にある数少ない理工学部、まさに東京のど真ん中です。

昼前に到着した私は、まず腹ごしらえのために3号館の学食へ…。ムム、混んでいるぞ、土曜日だというのに。どう見ても高校生がたくさんいる。大学見学だろうか?その割にはみな態度がでかい。とりあえず、注文をしなきゃ(食券方式ではなくカフェテリア方式)。何を頼んだらよいのだ。悩む。後ろにはドンドン人が並び悩んでられない…。「カツカレー!」。そう、悩んだときはカツカレーだ。450円をレジで払い、空いてる席へ。回りには高校生。落ち着かないが、しょうがない。会話も耳に入ってくる。わかった!こいつら、付属校(同じ敷地内にある中央大学高等学校)の生徒で、毎日ここで昼飯を食べてるんだ。私立だから土曜日もしっかり授業があるわけだよね…。さて、カツカレーのお味は…普通でした。



中央大学後楽園キャンパス内部

に

新学科・新棟・女子学生支援

さて、中央大学理工学部のウリは来年度新設される「人間総合理工学科」。現代社会の諸問題(防災・健康・環境・エネルギー etc.)などに対し、理工学の専門性を持ちながら複合的なアプローチの出来る人材を育てようというもの。そして、その新学科も入るのが昨年完成した新2号館。地下1階、地上9階建ての新棟は、説明会の後見学しました。さらに、もっとも力を入れていたのが「女子学生支援」。まず、女子高生対象としたGirl's Day、女子新入生だけを対象とした「プレ入学式」、女子学生向けの会社見学会、女性技術者を招いての講演会、なんと新2号館の女子トイレにはパウダーコーナー設置!(残念ながら、私に見学は許されませんでした)。その効果か、理工学部の女子比率は従来の10%程度から17.6%に上昇したとか…理系女子ってなんだかお得ですね。

羊羹に代わるお土産は…

色々な説明を聞いた後、新2号館を見学。個別相談にもちゃっかりと参加して色々依頼。その後、恒例の息子への土産購入のために大学生協へ。和菓子好きのアイツにはこの前と同じ中央大学羊羹を、と思ったところ…無いじゃん!中央大学クッキーは売っているのに、理工学部らしく白衣はたくさん売っているのに、肝心の羊羹が売っていない。焦った私は、丸ノ内線で池袋とは逆方向の銀座へ。週末土曜日で歩行者天国の銀座で、日本で最初の老舗パン屋である銀座木村屋に直行し、あんパン好きの息子のためにあんパンを購入したのであります。帰りの電車の中で余分に買ったパンをかじりながら、田舎も良いが銀座に簡単に出られる都会もたまには良いと思った私でした…。

(注)中央大が神田駿河台にあった文系学部を本部ごと多摩キャンパスに移転したのは1978年です。郊外型の先駆けで、自然に囲まれた広々としたキャンパスは一世を風靡しました。しかし、近年は都心から離れたキャンパスが逆に受験生から敬遠されるようになり、中央大は今年ついに看板学部である法学部の都心回帰を発表しました。2023年に法学部の2~4年生を地下鉄丸ノ内線の茗荷谷駅前にこれからつくる新キャンパスに移転し、2024年からは1年生も理工学部のある後楽園キャンパスで学ぶことになるということです。



中央大学後楽園キャンパスから見える東京ドームの天井。巨人ファンにはうってつけ!!



新2号館